

# 授業後に差が出る

心理学と脳科学の相乗効果で子供は伸びる

宮城

学(伊丹学生交流センター)代表



授業を適切に受けた子供は、その内容をしっかりと身につけられていると思われませんか。実は、ほとんどの子供は、授業を適切に受けても内容は身に付いていません。授業を受けただけで、新しい知識を定着させることはできないのです。これは大人でも同じです。親も、自分の身を振り返ってみれば納得できるはずですが、実は授業を受けた後にとる行動が、知識の習得に重要なポイントなのです。

では、授業を受けた後に、どのような行動をとれば良いのでしょうか。それは「思い出す」「使う」という二つの行動です。この二つの行動を使えば、人間の脳の特徴を活かして、効率よく学習することができます。

## 思い出す

脳に新しい知識を定着させるには、「知識を入れる」という考えが一般的です。しかし、知識を入れた後に「知識を出す」という行動をしなれば、脳には定着しません。具体的にどのような行動をとれば良いかというところ、自分が受けた授業の内容を他人に説明するのは、そうすると、脳が授業で入れた知識を一生懸命思い出そうとします。その作業が脳に知識を定着させることに繋がります。毎晩子供と話しをする時に「今日はどんな授業だった？」「今日は何を学んだの？」と聞くようにすると、子供は授業内容を話すようになります。この会話が「思い出す」という行動に

なりません。授業内容を聞く時に、子供が授業中にとったノートを見ながら説明を聞くと効果抜群。子供も自分が書いたノートを見ながら授業の振り返りができます。

これが日常行動になると、ノートのとり方も変わってきます。ただ黒板を写生するのではなく、後で見返した時に重要点が分かるように整理されるようになります。

## 使う

脳は使用頻度の高いものから優先順位をつけます。そして、優先順位の高いものから、知識の定着作業をしていきます。そういう特性がありますので、使用頻度の低いものはなかなか定着しません。この点は一般的にも知られているので、子供達も問題集やドリル等で、数をこなすことが必要だと理解していると思いま

す。但し、義務感だけで問題集に取り組むのは難しいことです。問題集に取り組んでいる子供に寄り添い、その行動を称える言葉をかけてあげましょう。一緒に問題について考えるのも良いです。子供は親と共同作業ができること嬉しいものです。楽しい共同作業が学力向上に繋がったら、子供も親もメリットいっぱい一石二鳥ではないでしょうか。東中学校のサタスタ東（土曜学習会）でも、子供に寄り添うことを実践しています。スタツフに教えて貰う為に来ているという生徒もいれば、問題集に取り組むモチベーションを維持できる場としてサタスタ東に来ている生徒もいます。各人の事情に合わせて有効に活用して下さい。

子供達は、毎日宿題を持って帰ってきていると思います。今日はどんな宿題があるのか、子供に聞いて下さい。数学の問題集なのか、英単語の書き取りなのか。それは、どの問題集の何ページから何ページまでなのか。それは因数分解なのか、二次方程式なのか。子供の日々の学習に関心を示すことが、子供の学力向上の一番重要なポイントです。



サタスタ東の様子